

2009(平成 21)年度

学生による授業評価アンケート集計結果に関する報告

経済学部教育改善・自己点検委員長

はじめに

2009年度の授業評価アンケートの集計結果がまとまりましたので、ここに公表いたします。

経済学部では2002年度から授業評価アンケート調査を実施してきました。幸いにして、多くの学生や教職員のみなさんの協力によって、年々拡充の度を増しており、今年も無事実施することができました。また、2006年度頃までは試行錯誤を繰り返して毎年少しずつ質問項目や実施方法が変更されていましたが、2007年度以降はほぼ一貫した調査方法・態勢を確立することができました。あらためて深く感謝いたします。

授業評価アンケート調査は、学部教育の実態を把握し、気づかなかつた問題を発見し、そして、改善していくための基礎資料となります。後述するように、実際にここ数年の集計結果をみると、経済学部の教育は着実に改善されてきています。一緒になって東洋大学経済学部を向上・発展させていくために、今後ともご協力をよろしく申し上げます。

1. 調査の実施概要

今年度の調査は、大略以下のように実施されました。これは、2007年度以降、ほぼ変わっていません。逆にいうと、2006年度と2007年度以降との間には実施方法や手順について、必ずしも継続性が保証されません。とくに、一般講義科目(含むゼミナール)の調査とゼミナール～(2年生以上の専門ゼミ)の調査が2007年度から分離され、それぞれ個別に集計されるようになったことは注意してください。

<実施時期>

春学期科目 2009年6月29日～7月11日

秋学期科目 2009年11月30日～12月12日

<調査形式>

マークシートと自由記述を1枚ずつで実施しました。

マークシート方式：質問項目17個(質問項目は表1と表2)

ただし、質問16,17はゼミナールだけの項目

自由記述方式：「良かったこと」「改善を要すること」「その他」について

表1 一般講義科目(含ゼミナール) アンケートの質問項目

設 問	質 問 文	2009	2008	2007	2006	2005
	1 私はこの授業によく出席した。					
	2 私はこの授業の予習や復習をして意欲的に学習した。					
	私は私語をせず熱心にこの講義を受講した。					
	3 シラバス(講義要項)は履修選択や授業の予習・復習に役立った。					
	4 教員は授業の準備をよくしていた。					
	授業内容の難易度(レベル)は適切であった。					
	5 授業内容は明確でわかりやすかった。					
	授業は要点を的確に押さえた構成になっていた。					
	授業内容はシラバス(講義要項)に明示されていた。					
	6 授業内容は刺激的であり、対象分野に対する興味が高まった。					
	7 話し方は聞き取りやすかった。					
	8 黒板の板書やスクリーン、テープ等で用いられた資料は視聴しやすかった。					
	9 教科書・参考書・配布資料は役に立った。					
	10 授業は毎週休講なしに、開始・終了時間を守って、規則正しく行われていた。					
	11 教員は、必要に応じて私語を注意するなど、受講者が講義に集中できる環境を作った。					
	12 教員は授業に情熱を持っていた。					
	13 レポート、宿題、自習課題、予習・復習の指示は適切であった。					
	14 教員は授業時間内・外の質問に快く応じ、適切な説明をした。					
授業内容は新しい知識やものの見方など自分にとって得るものが多かった。						
15 この授業は有益であり、友人や後輩に推薦できるものであった。						
	16 このゼミによって教員やメンバー学生との交流ができた。					
	17 このゼミは、大学における勉学の入門・向上に役立った。					
	このゼミは、学生生活における人間関係や、社会と関わる入り口として役に立った。					
	履修要覧・講義要項の内容、履修ガイダンスでの説明はわかりやすかった。					
	履修に関する質問に対して、教務課の窓口は快く応じ、適切な説明をした(質問にいった人のみ)					

表2 ゼミアンケートの質問項目

設 問	質 問 文	2009	2008	2007
1	説明会の実施方法は適切だった。			
2	志願書の提出方法は適切だった。			
	2次募集の方法は適切だった。			
3	説明会・募集要項等において、ゼミの内容の事前周知はわかりやすかった。			
4	授業目標は、授業開始時等に明確に示されていた。			
5	運営方法は、目標達成のために適切だった。			
6	授業は毎週休講なしに、開始・終了時間を守って、規則正しく行われていた。			
7	問題を発見し解決する能力が身についた。			
8	図書館・パソコン等を通じて情報収集能力が高まった。			
9	文章作成能力・発表能力が身についた。			
10	経済や社会に対する関心が高まった。			
11	経済や社会に対する理解が深まり、幅広い見方が身についた。			
12	自ら学ぶ姿勢が身についた。			
13	他の受講者や教員と有益な交流ができた。			
14	このゼミは自分にとって有益だった。			

<実施対象科目>

授業評価アンケートについては、本年度は以下のような基準のもとで実施しました。これも2007年度以降の方法を踏襲しています。

・ 専任教員

講義科目アンケートは2科目以上（1年ゼミを含む）*

ゼミアンケート（専門ゼミ）は2部ゼミ含め2～4年すべて実施

* 科目選択の優先順位

必修講義科目、1年ゼミ（ゼミナール A、 B、入門演習等）、選択科目。

必修が3科目以上の場合はその中から選択、ただし講義科目は必須、1年ゼミはできるだけ実施する。

・ 非常勤講師：1科目以上

<実施科目数>

実際の実施科目数や回答学生数などのデータは以下ようになります。2005年度までは、「一般講義科目」と「ゼミナール科目」の合算になります。2007年度以降は、「春」「秋」の段は「一般講義科目（含むゼミナール）」の集計結果、「ゼミ」の段は「ゼミナール～」の集計結果になります。実施科目数と回答者数が着実に増加しています。その裏返しとして回答率が低下傾向にあることが気になっており、これからは回答率にも考慮した工夫が必要となるかもしれません。

表3 学生による授業評価アンケートの実施科目数・受講者数・回答率(2005～2009年度)

年度		実施科目数	実施科目 履修者数 a	有効 回答者数 b	回答率 b/a (%)
2005	春	27	4,055	2,371	58.5
	秋	163	20,046	11,174	56.9
	計	190	24,101	13,784	57.2
2006	春	50	5,436	2,905	53.4
	秋	141	16,256	10,598	65.2
	計	191	21,692	13,503	62.2
2007	春	47	5,198	2,912	56.0
	秋	148	15,129	6,703	44.3
	ゼミ	117	1,760	1,341	76.2
	計	312	22,087	10,956	49.6
2008	春	117	12,407	6,811	54.9
	秋	161	17,690	8,433	47.7
	ゼミ	106	1,615	1,203	74.5
	計	384	31,712	16,447	51.9
2009	春	120	11,115	6,112	55.0
	秋	150	17,051	7,616	44.7
	ゼミ	122	1,983	1,426	71.9
	計	392	30,149	15,154	50.3

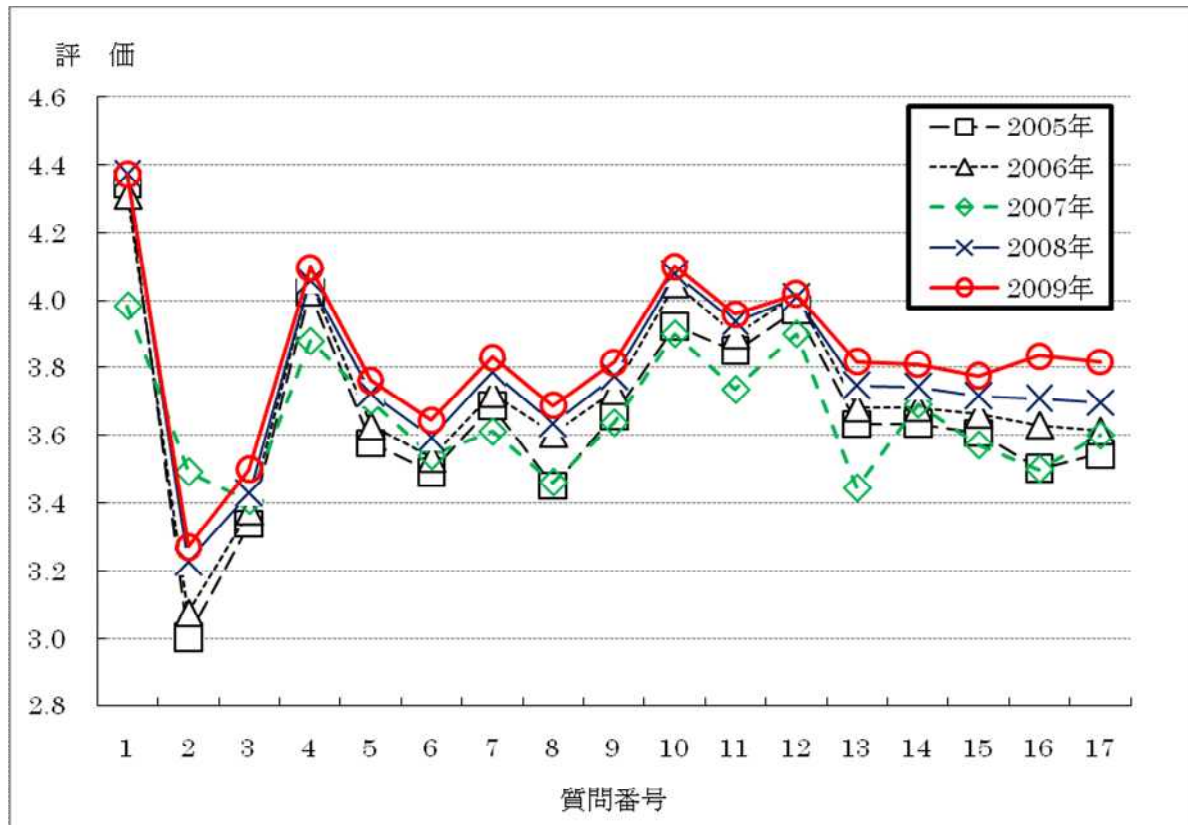
2. 一般講義科目（含むゼミナール）の集計結果

2-1. 学部全体の平均

経済学部全体の平均の動向は図1に表されています。2009年度は過去5年間で最高の高評価

となりました。2005 年度と 2006 年度は、相対的に良好な評価を得られるゼミナール ~ を含めていることを勘案すると、これは望ましいことだと考えて良いでしょう。また、経年的に見ても、直接的に比較可能な 2007 年度以降、明確な改善傾向を読み取ることができます。とくに改善幅の大きかった質問 8, 11, 13 は教育上の技術や心がけに関わるものであって、この改善の背景にはアンケート結果ら照らして教員が様々な改善努力を行ったのだと考えられます。

図 1 一般講義科目（含むゼミナール）：学部全体の動向



2-2. 学科別の動向（総合政策学科は 2007 年度までは社会経済システム学科）

学科ごとの集計結果見ると、2009 年度的全質問項目の平均では、国際経済学科（3.90）、総合政策学科（3.83）、経済学科（3.81）、そして二部経済学科（3.79）となっており、国際経済学科が最も高い評価を獲得しました。また、質問項目別に見ても国際経済学科は多くの項目で学科間の最高評価となっています（図 2）。

学科ごとの全体平均を経年的に整理した図 3 を見ると興味深いことが判ります。まず、総合政策学科は 2005 年度から学科別にみて最高評価であったのですが、2007 年度以降は横ばいあるいは微減となっています。これに対して、2007 年度以降、経済学科と国際経済学科は急激に評価を向上させて、ついに 2009 年度には国際経済学科が学科別評価のトップに立ちました。経済学科も 2006 年度から比較して約 0.2 ポイントも改善しており、総合政策学科の評価に肉薄するまでになっています。とはいえ、総合政策学科も 3.8 を超える評価を安定的に維持していま

す。同じ学部内の他学科は身近なライバルとして、互いに切磋琢磨を進めていくことが学部全体のさらなる発展へと繋がると思われます。

図2 一般講義科目（含むゼミナール）：学科別の質問項目

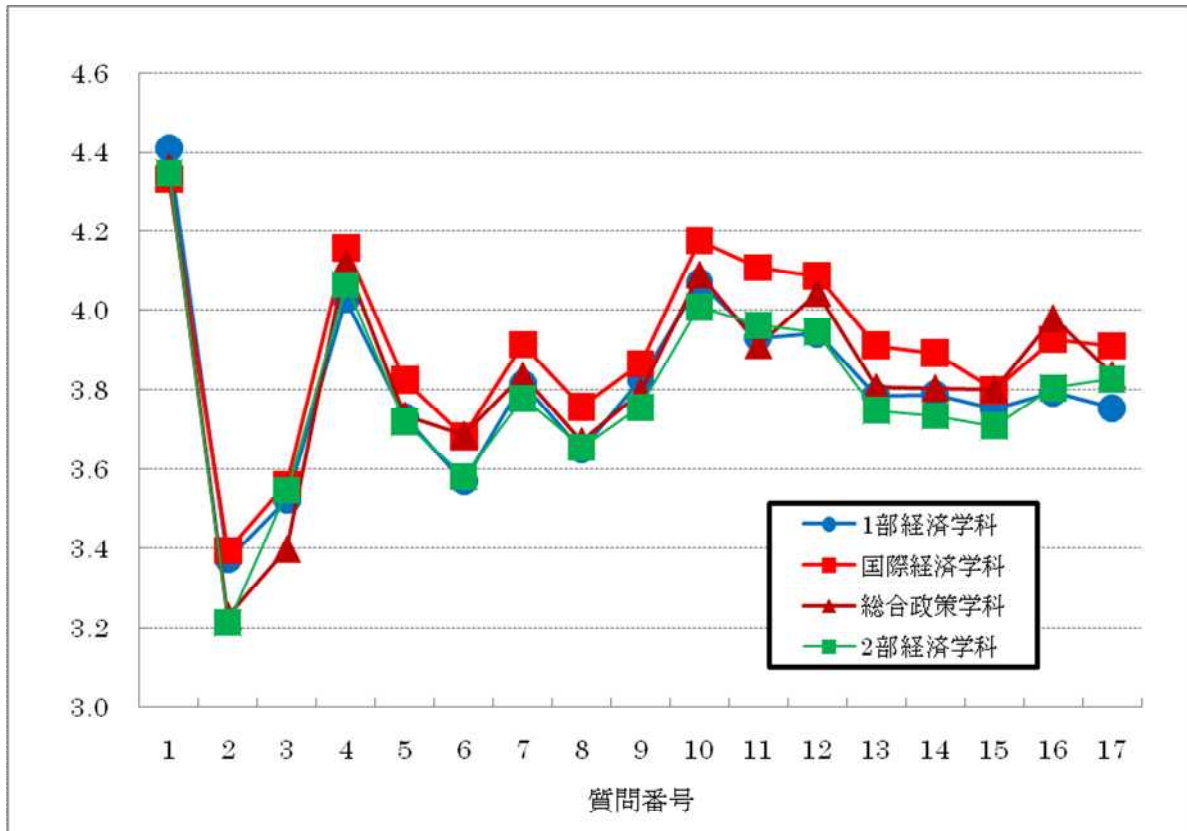
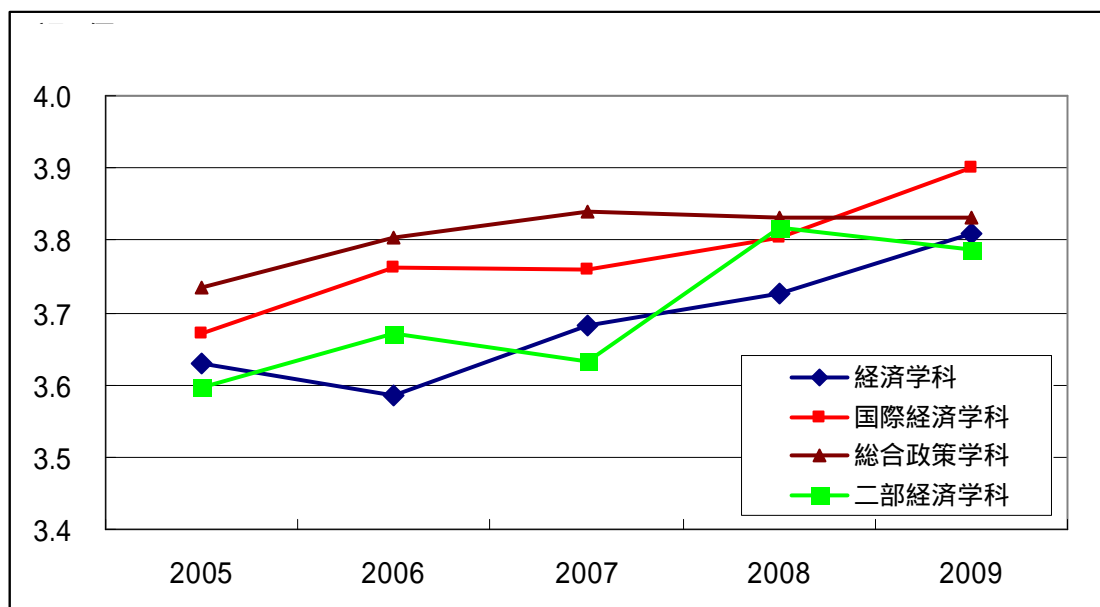


図3 一般講義科目（含むゼミナール）：学科別の経年変化



2-3. 科目グループごとの集計結果

科目グループごとでは、「語学必修」「語学選択」「ゼミナール」「一般教養」「専門必修」および「専門選択」の6グループに分けて集計しました(表4)。ただし、科目グループごとに講義の内容や進め方に大きな違いがあるので、相互に比較することはあまり意味がありません。

しかし、この集計結果は、個々の科目についてよりきめ細かな議論をするときに大いに役に立ちます。なぜなら、このデータは科目グループごとの構造を反映しているので、特定の科目の位置づけをより深く理解することができます。例えば、ある特定の科目の特徴をつかもうとするときは、所属する科目グループのデータに照らすことで、より精確に検討することが可能になるのです。

表4 科目グループごとの集計結果

科目別	語学必修 科目	語学選択 科目	ゼミナール	一般教養 科目	専門必修 科目	専門選択 科目
質問 1	4.58	4.38	4.65	4.46	4.37	4.33
質問 2	3.77	3.54	3.63	2.86	3.14	3.25
質問 3	3.47	3.60	3.47	3.48	3.31	3.56
質問 4	4.16	4.33	4.01	4.08	4.05	4.13
質問 5	3.93	4.03	3.83	3.67	3.54	3.78
質問 6	3.87	3.97	3.60	3.69	3.40	3.71
質問 7	4.03	3.97	3.89	3.50	3.73	3.84
質問 8	3.93	3.97	3.68	3.55	3.52	3.70
質問 9	3.90	4.12	3.75	3.67	3.75	3.88
質問 10	4.36	4.41	4.22	4.20	4.17	4.07
質問 11	4.13	4.40	4.00	3.72	4.08	3.97
質問 12	4.35	4.41	3.98	4.02	3.97	4.04
質問 13	4.03	4.18	3.88	3.69	3.76	3.82
質問 14	4.13	4.16	3.88	3.68	3.68	3.80
質問 15	4.02	3.99	3.77	3.74	3.56	3.84
質問 16	4.55	3.92	3.95	3.13	3.69	3.54
質問 17	4.50	4.00	3.86	3.43	3.63	3.68

2-4. クラス規模別の集計結果

経済学部での授業評価アンケート調査では、受講者数でみたクラス規模別のデータも集計しています。ここでは、クラス規模別に、講義の分かりやすさについて尋ねる質問5に関する集計

結果（図4）と、講義の有益さについて尋ねる質問15に関する集計結果（図5）について見てみます。これらの質問はいずれも、講義の成果に関する質問事項とよいでしょう。

結果は極めて明瞭です。つまり、クラス規模が100人より大きい小さいかで、評価が大きく乖離するのです。これは、実際に講義を受けている学生の皆さんも感じていることではないでしょうか。大規模クラスでは、望ましい講義はそもそも困難なのです。大学としてより良い講義を提供するために、クラス規模を適正化していく必要があります。

図4 クラス規模別でみた評価の経年変化（質問5）

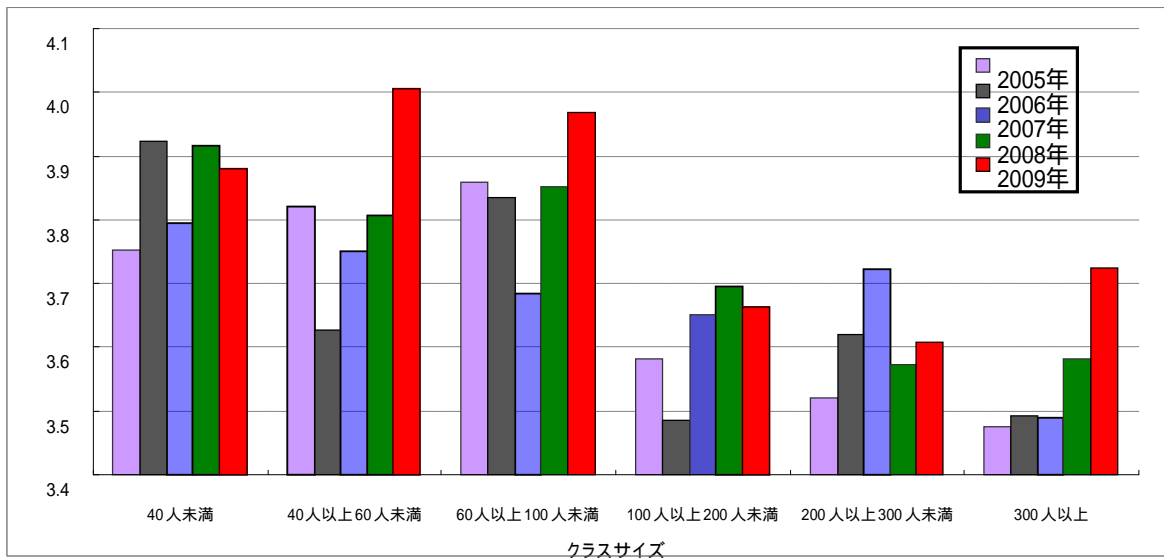
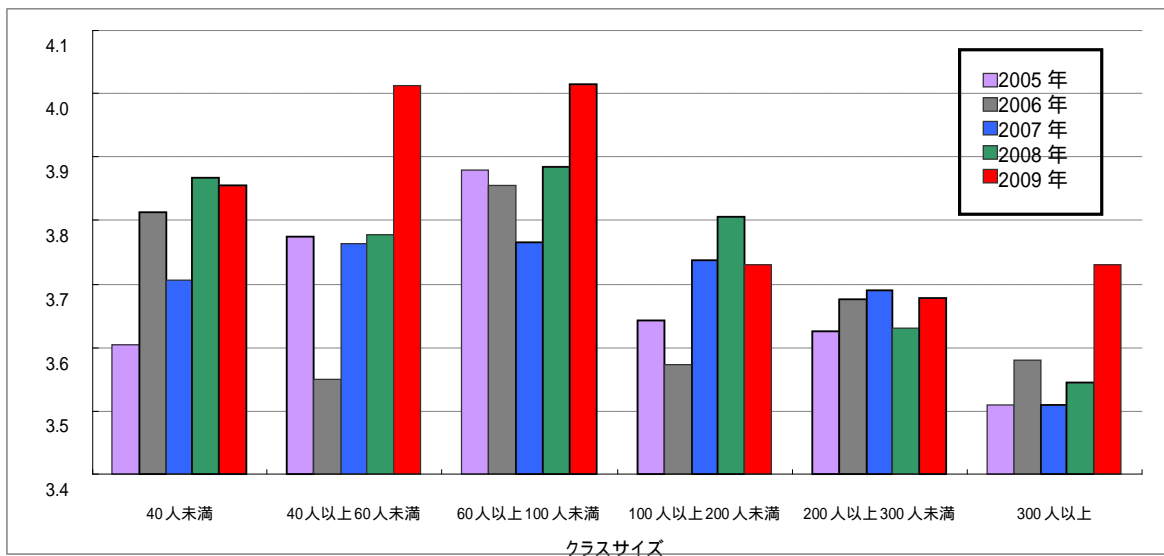


図5 クラス規模別でみた評価の経年変化（質問15）



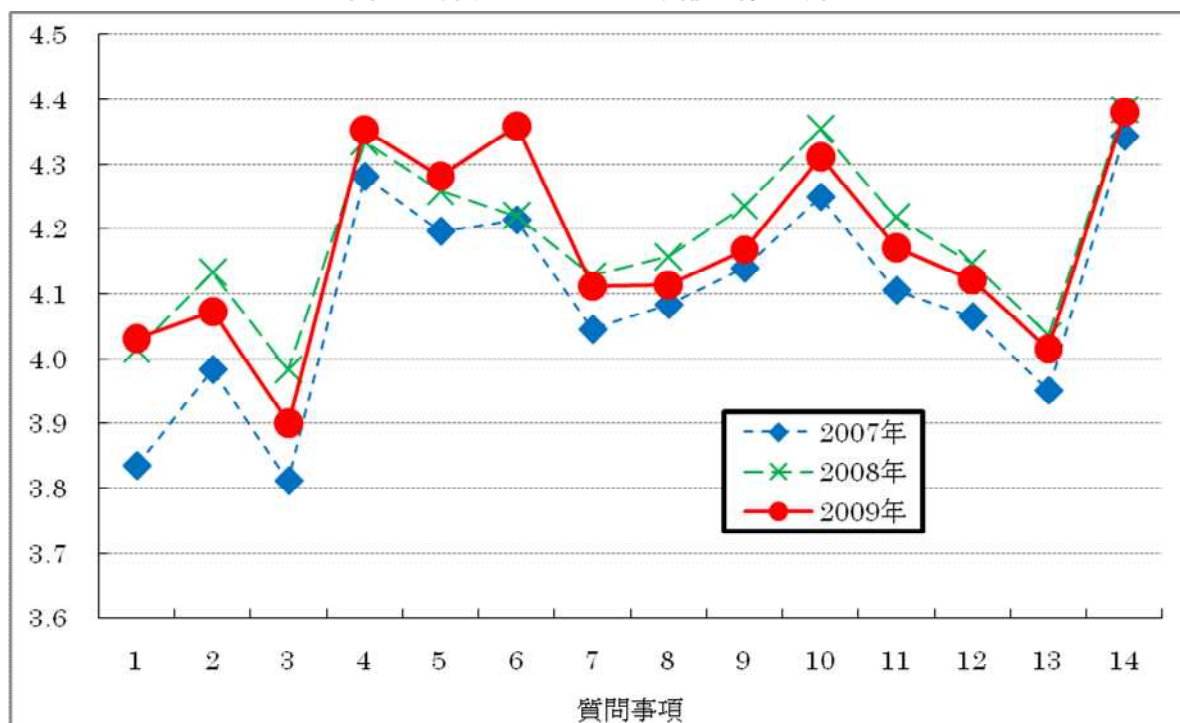
3. ゼミナール科目の集計結果

3-1. 全体平均

次に、ゼミアンケートの集計結果を紹介します。これは、2年次以降に開講される専門ゼミの全クラスについて実施される調査になります。

調査が開始された2007年度以降の経年変化をみると、ゼミの運営に関する質問5～7については着実な改善傾向をみて取ることができます。しかし、ゼミの成果に関する質問7～14では、2009年度の評価は2008年度を下回っています。この背景にある原因については現時点では分かりません。しかし、ほぼ全ての質問項目について調査年度ごとに同じ傾向を示しているということは、何らかの構造的要因があると考えられます。ゼミアンケート調査を継続していくことで、原因の解明と改善策の設計を進めていくことが期待されます。

図6 専門ゼミナール：学部全体の動向

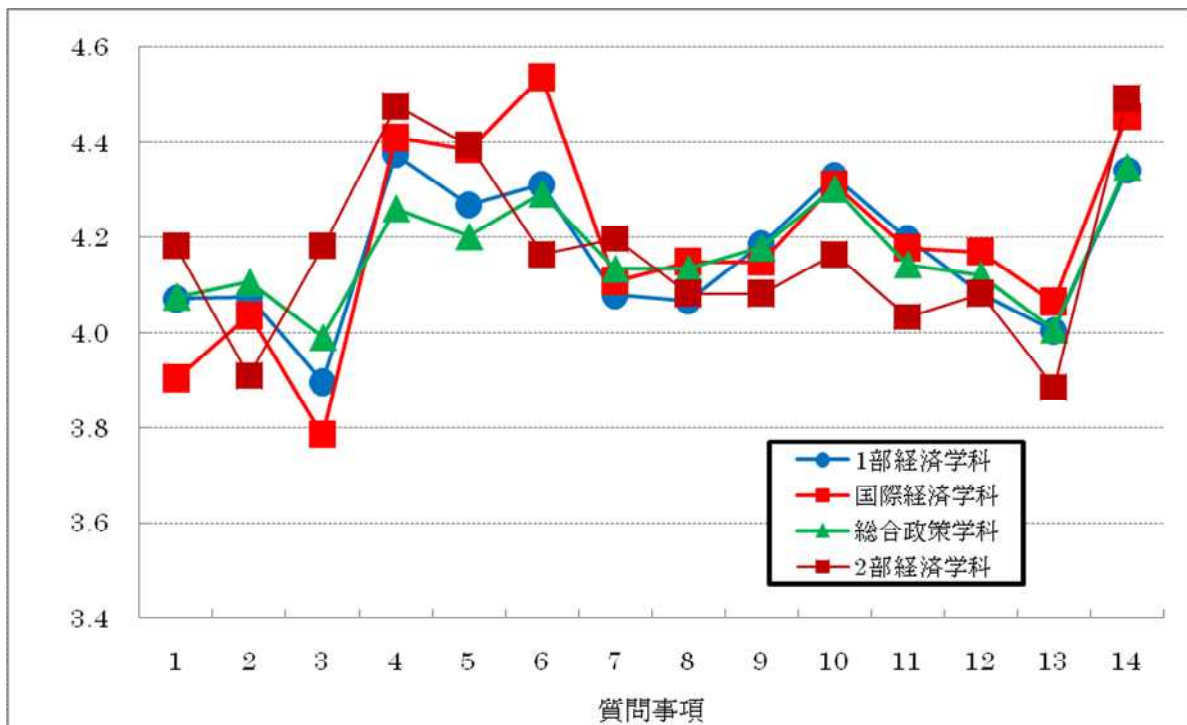


3-2. 学科別の動向

少人数クラスで専門的知識を学ぶゼミナールは経済学部各学科における教育において非常に重要な役割を果たしています。それだけに、学科ごとにゼミの位置づけや運営方針は異なっているものになっています。例えば、必修か選択かで、受講人数や評価も大きな影響を受けます。このため、一概に学科間の評価を比較することは難しいのですが、参考までに集計結果を整理しておきます。

全般的に高い評価を獲得しているのは国際経済学科です。とくに、ゼミの運営に関わる質問 4、5、6 が高い評価を得ています。また、ゼミの募集に関する質問 1、2、3 は総合政策学科の評価が高くなっています。これらの項目については、学科の垣根を越えて改善努力を進める余地があります。一方、ゼミの成果に関する質問 7～14 については学科間の違いはそれほどありません。これらの質問項目に関わる部分では、個別的に改善を進めていくことが求められるでしょう。

図7 専門ゼミナール：学科別の質問項目



おわりに

授業評価アンケートは、地道に継続していくことで、学部教育を改善していくための多大な情報を提供してくれます。ここにまとめた集計結果だけでも、経済学部が直面している状況について理解するための材料を数多く見出すことができます。もちろん、これらの集計結果から得られる情報には重大な限界もあります。しかし、普遍性や検証困難な直観や印象で学部教育を論じることを回避するためには、やはりアンケートを活用するのは極めて有力な方法になります。

そして、実際に2009年度の集計結果を見ても、アンケート調査の拡充に平行して、評価自体も1～2年単位で着実に改善していることが判ります。東洋大学経済学部をより良いものにしていくはじめの一歩として、今後とも授業評価アンケート調査にご理解と、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。